

## 株主メモ Shareholders memo

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 中間配当を行う場合 毎年9月30日 (その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。)
公告方法	電子公告の方法により行います。 ホームページアドレス <a href="http://www.honyakuctr.com">http://www.honyakuctr.com</a> ただし、やむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
株主名簿管理人	東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (電話お問合せ) (郵便物送付先)	東京都杉並区和泉2丁目8番4号 (〒168-0063) 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 各種手続用紙のご請求は下記のフリーダイヤルまたはホームページをご利用ください。 ○フリーダイヤル 電話 0120-87-2031 ○ホームページアドレス <a href="http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html">http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html</a>
同取次所	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店
上場証券取引所	大阪証券取引所 ニッポン・ニュー・マーケット「ヘラクレス」
証券コード	2483

### 見通しに関する注意事項

この報告書には、翻訳センターグループの将来についての計画や戦略、業績に関する予想及び見通しの記述が含まれております。これらの記述は過去の事実ではなく、当社が現時点で入手可能な情報から判断した見込みであります。世界経済の動向、税制や諸制度などに関するリスクや不確実性を際限なく含んでおり、実際の業績や結果は当社の見込みと異なる可能性があることをご承知おき下さい。



## 株式会社 翻訳センター

お問い合わせ先

本社

〒541-0046  
大阪市中央区平野町2丁目5番8号  
平野町センチュリービル9F

Tel : 06-6204-1640

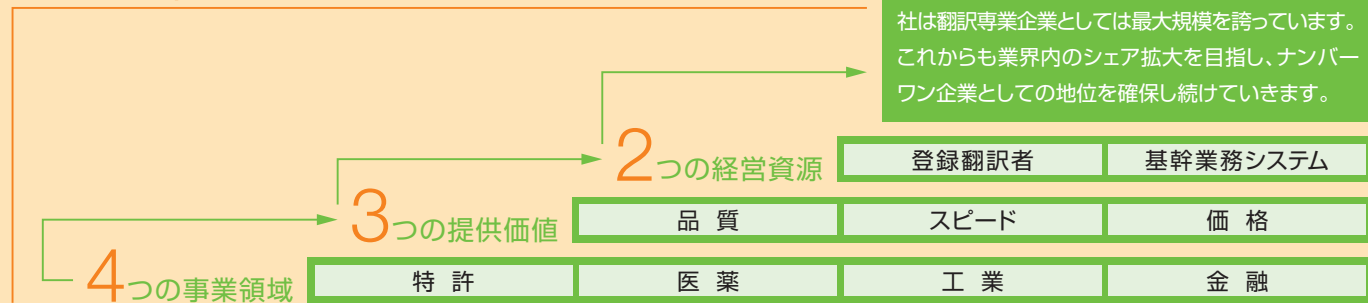
e-mail : [info@honyakuctr.co.jp](mailto:info@honyakuctr.co.jp)



## 第22期 期末のご報告

2007年4月1日～2008年3月31日

株式会社 翻訳センター



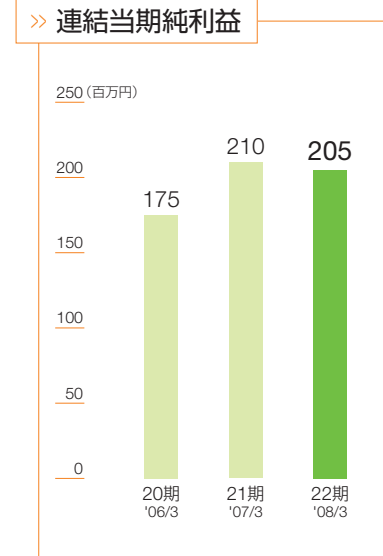
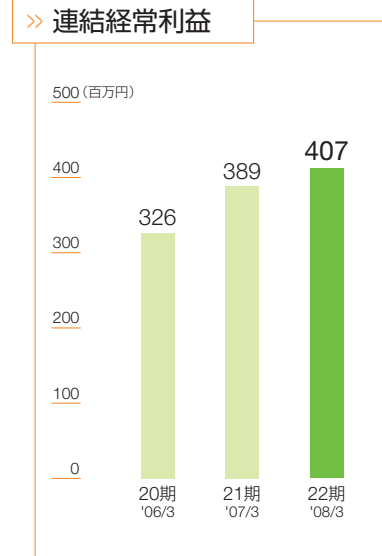
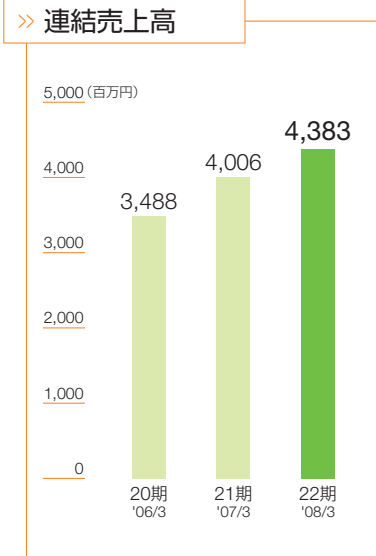
# 翻訳を超えた 高付加価値サービスの実現に 取り組んでいます。



代表取締役社長 東 郁男

## 業績ハイライト

## Achievement Highlights



### 第22期業績の概況ならびに 第23期の経営方針を説明してください。

当社グループは、おかげさまで5期連続の増収を続けてまいりましたが、これも株主の皆様のご支援によるものと感謝しております。ご報告に先立ちまして、一言御礼申し上げます。

産業技術翻訳の分野は国際取引の活発化に連動し、つねに安定した受注件数が確保できるため、国内外景気の低調な動きにも影響を受けることが少なく、第22期（2008年3月期）につきましても業績はほぼ堅調に推移し、売上高43億83百万円（前期比9.4%増）、営業利益4億3百万円（前期比0.7%増）、経常利益4億7百万円（前期比4.6%増）、当期純利益は2億5百万円（前

期比2.6%減）という結果になりました。これは、売上高の最も大きい特許分野が順調であったこと、続く医薬、金融分野が大きな伸びを見せたこと、工業分野の中でも取扱量の多い自動車関連の受注件数も日本の自動車メーカーの海外展開と歩調を合わせ実績を維持したことなどが、業績に結びついたものと分析しております。なお、当期純利益が前期より減少しているのは、米国子会社が通年稼動したことによる先行負担によります。第23期（2009年3月期）において、当社グループの需要拡大が予想されるのは医薬分野です。医薬品市場は、現在取引されている多くの主要医薬品の特許期間が2010年前後に終了するという、いわゆる「2010年問題」に直面しています。特許切れの後に製造され



る価格の安いジェネリック医薬品の参入に対抗するため、医薬品メーカー各社は新薬開発を進めています。これらの新薬開発に関わる翻訳・申請業務の需要に対応すべく、当

社はメディカルライティング業務を4年前より開始いたしました。メディカルライティングとは厚生労働省やFDA（米国食品医薬品局）などへ提出する申請書類の作成を支援する業務です。「2010年問題」が直前に迫ってきた前期、当期にはメディカルライティングの受注件数が倍増しましたが、来期はいっそうの伸張が期待できます。自動車関連分野も、各社のグローバル展開が進んでいる状況を考えますと、同じく需要増が予測されます。市場ニーズの増大に迅速な対応ができるよう、人材教育と人員増強の質量両面から営業力強化に取り組んでまいります。

事業領域拡大に向けての新たなターゲットは、昨今海外進出がめざましい日本のマンガやアニメ、ゲームなどのメディア・コンテンツ分野です。日本のマンガが輸出され、アニメ、ゲームが制作・翻訳されることが多いことから、関連需要が期待できる市場です。一昨年、米国に設立した子会社を中心に営業展開しています。

## 中長期の事業・経営の軸となるビジネスモデルについて聞かせてください。

現在、新たな価値創出のビジネスモデルとして、当社グループ独自の「翻訳プラットフォーム」の構築を進めています。これは、原文や関連資料、完成した文書、業務に携わった翻訳者などに関する詳細な情報をデータベース化したシステムです。顧客ニーズに合ったスキルを有する翻訳者を迅速に選び出したり、関連案件ごとに翻訳書類書式や専門用語を統一するため利用するなど、業務の効率化につながる様々な活用を考えています。

このシステムにより、クライアント企業側にはリピート発注時の手間の軽減というメリットを提供し、競合他社へのスイッチング阻止に効果が上がると思われる。また翻訳者側には、作業の省力化と品質の向上が期待できます。

また、中期的な成長戦略の一環として、当社の成長基盤である人材の増強を行ってまいります。特に2009年3月期におきましては、中期経営計画の達成に向けて、営業担当者、コーディネータ、校正者を中心に約20%の増員を計画しております。

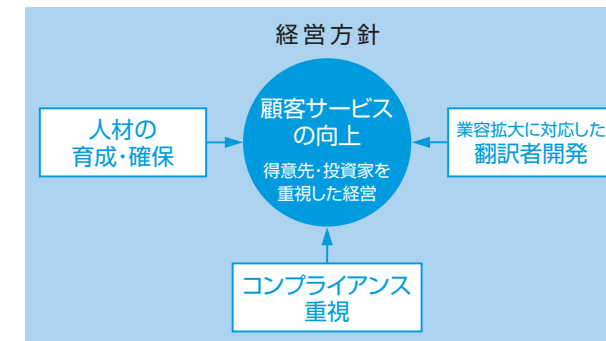
次に、医薬分野で一定の成果をあげ、売上増加に貢献しているサービスの高付加価値化と集中購買化提案を、

他分野においても推進してまいります。

さらに、米国子会社につきましては、2009年12月期の黒字化を必達目標にして運営してまいります。マンガ・ゲームなどのコンテンツ分野では、すでに一定の成果をあげておりますので、今後は在米日系企業から米国企業にもターゲットを広げて技術分野でも新規開拓に取り組んでまいります。

## 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

当社グループは、創業以来「品質」「スピード」「価格」のバランスの取れた価値ある翻訳サービスの提供により、多くの顧客の信頼を獲得してまいりました。「品質」については、販売管理システムSOLAによって、マッチングの最適化を図り、品質管理の向上に取り組んで



います。「スピード」については、現在構築中の「翻訳プラットフォーム」を活用し、さらに効率化を進めております。「価格」については、つねに適正価格を維持し、顧客のメリットと当社グループの収益性との確保に努めております。また、コンプライアンスの重視、とりわけ機密保持につきましては万全の注意を払い、情報システムによる管理とともに、全社員ならびに登録翻訳者すべてに機密保護の意識付けを徹底しています。

産業技術翻訳は、各企業の技術者による作業に頼っていることも多く、専門的な翻訳サービスへの潜在ニーズはきわめて大きいと考えられます。翻訳専門企業として初めて上場を果たした業界のリーディングカンパニーとして、この潜在ニーズを喚起し、市場全体の活性化を図っていくために、より一層の努力を続けていきたいと存じます。

今後とも積極的な営業活動により、成長路線を維持し、企業価値を高めてまいります。株主の皆様におかれましては、利益成長に応じた継続的な増配を基本方針とし、中期目標としては、配当性向30%を目標にしてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 安定需要が続く4つの事業領域を核に 成長路線を維持しています。

世界的に知的財産権への認識が高まり、企業戦略の中核に位置付けられるようになりました。日本企業による米国や欧州、中国への特許出願の重要性は高まる一方であり、また外国企業にとっても日本への特許出願は不可欠です。当社はクライアント企業の知財戦略パートナーとして特許関連文書の翻訳を手掛けております。

出願用明細書などの特許文書を翻訳するためには、外国語能力だけでなく、特許制度や特許法の知識、そして何よりも最先端技術の知識が必要になります。一口に特許といっても、その技術分野は画像処理技術や工作機械、高分子化学、バイオ技術など多岐にわたります。当社は従来の経験と実績において、このような高度な能力を備えた翻訳者や社内スタッフを拡充してまいりました。また今後は、これまで培ってきた特許翻訳の知識を活かして、英文明細書作成支援やオフィスアクション対応支援など、外国出願支援サービスを展開してまいります。

### 主な翻訳対象

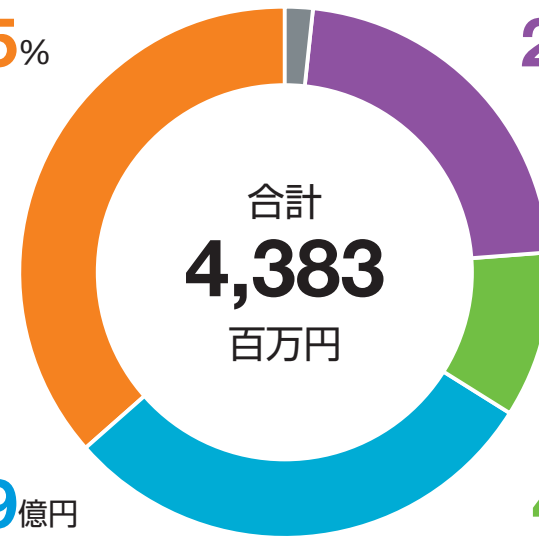
- 特許明細書
- 優先権証明書
- 特許庁手続書類
- 特許公報

売上高 (単位: 百万円)



**特許分野**  
PATENT

16.0億円  
36.5%



**工業分野**  
INDUSTRY

9.6億円  
22.1%

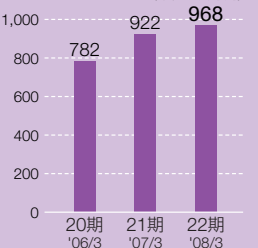
世界をリードする自動車産業を中心に、グローバルマーケットで活躍する国際企業のバックオフィスとして様々な文書の翻訳を手掛けております。クライアント企業の業種セクターは、電気、通信、鉄鋼・非鉄金属、精密機械、環境、エネルギー、建設、運輸、等々多岐にわたりますが、売上構成の中心となっているのは自動車関連産業です。

日本の自動車関連企業は、世界を市場にしています。自動車及び関連部品を海外販売する際には、ユーザーマニュアルや仕様書などの技術文書を現地語に翻訳する必要があります。また、販売先としてだけでなく、製造拠点多世界的に展開されています。プラットフォームのグローバルな共有化が促進される中で、海外生産を促進するためには、設計や製造設備に関する文書をはじめとして、製造管理や業務管理の資料まで、様々な文書を翻訳して、知識と情報の共有化を図る必要があります。当社はこのような多岐にわたる文書の翻訳をお手伝いすることによって、製品や製造設備のグローバル展開をサポートしています。

### 主な翻訳対象

- 取扱説明書
- 仕様書
- 契約書
- 規格書
- 研究論文

売上高 (単位: 百万円)



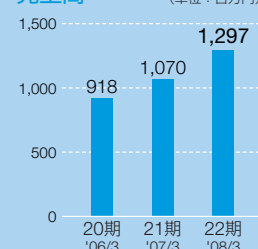
近年、日本の医薬品市場をとりまく環境は急速に変化しています。薬価引き下げやジェネリック医薬品の使用促進などによる市場規模の頭打ちが懸念される中、日本の製薬企業は海外市場の比重を高めており、逆に外資系製薬企業による日本進出はますます攻勢を強めています。業界再編が加速され、大型M&Aによるメガファーマ化が進み、新薬開発競争も激化しています。

このような環境の中、当社は、各製薬企業の研究開発やマーケティングなどのグローバル展開を支援するため、ビジネスサイクルのあらゆるステージで発生する翻訳に対応しています。新薬開発の初期段階である創薬から非臨床、臨床、市販後調査レポート、SOP、マーケティング資料まで対応しています。領域としては、循環器系、神経系、呼吸器系、免疫系のほか、眼科、整形外科など幅広い実績があります。また新薬開発にかかわるサービス強化の一環として、単に翻訳業務を受注するだけでなく、メディカルライティング業務も受託しております。

### 主な翻訳対象

- プロトコル・スタディレポート
- PMS関連資料
- 医薬学術論文
- 医療機器の取扱説明書 など

売上高 (単位: 百万円)



**医薬分野**  
MEDICAL

12.9億円  
29.6%

**金融分野**  
FINANCIAL

4.4億円  
10.1%

金融・資本市場のグローバル化はますます促進されてきています。外国から日本企業への投資も増加しており、日本企業も英語で情報発信を行うケースが増えています。

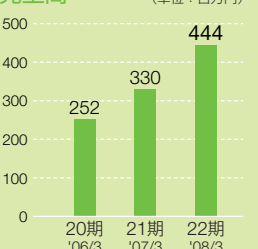
最近特に注目されるのは、IR・ディスクロージャー資料の英語化ニーズの増加です。外国人持株比率の増加によって、日本の上場企業各社は英文による情報開示の必要性に直面しています。当社では、株主総会招集通知や決算短信などの制度開示文書の他、海外ロードショーで使用するプレゼンテーション資料、アニュアルレポート、ホームページなど任意開示資料の迅速な英語化をお手伝いしております。

また、証券・銀行・保険などの金融機関を中心に、法律事務所、シンクタンク、コンサルティング企業などのクライアントに対して、調査レポート、プレゼンテーション資料、デューデリジェンス資料、目録見書、契約書、財務文書、社内規程など様々な文書の翻訳をご提供しております。

### 主な翻訳対象

- 銀行・証券・保険関連資料
- 財務・会計関連資料
- 金融システムマニュアル
- 各種契約書
- 法務文書 など

売上高 (単位: 百万円)



連結貸借対照表（要旨）

（単位：千円）

	当期 2008.3.31現在	前期 2007.3.31現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,114,332	1,820,351
固定資産	243,311	286,822
有形固定資産	64,028	91,577
無形固定資産	15,395	14,513
投資その他の資産	163,886	180,731
資産の部合計	2,357,643	2,107,173
<b>負債の部</b>		
流動負債	742,554	685,872
固定負債	120,768	117,468
負債の部合計	863,323	803,341
<b>純資産の部</b>		
株主資本	1,497,877	1,304,191
資本金	399,536	386,000
資本剰余金	289,916	276,380
利益剰余金	808,425	641,811
評価・換算差額等	△ 3,556	△ 358
その他有価証券評価差額金	△ 1,480	—
為替換算調整勘定	△ 2,076	△ 358
純資産の部合計	1,494,320	1,303,832
負債・純資産の部合計	2,357,643	2,107,173

（注）記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書（要旨）

（単位：千円）

	当期 2007.4.1～2008.3.31	前期 2006.4.1～2007.3.31
<b>① 売上高</b>	4,383,092	4,006,728
売上原価	2,287,038	2,087,353
売上総利益	2,096,053	1,919,375
販売費及び一般管理費	1,692,772	1,518,868
<b>② 営業利益</b>	403,281	400,506
営業外収益	5,379	4,557
営業外費用	1,436	15,648
<b>③ 経常利益</b>	407,224	389,415
<b>④ 特別利益</b>	13,362	14
特別損失	1,718	—
税金等調整前当期純利益	418,868	389,429
法人税、住民税及び事業税	218,074	191,112
法人税等調整額	△ 4,369	△ 12,378
<b>⑤ 当期純利益</b>	205,163	210,695

（注）記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：千円）

	当期 2007.4.1～2008.3.31	前期 2006.4.1～2007.3.31
営業活動によるキャッシュ・フロー	285,179	240,501
投資活動によるキャッシュ・フロー	7,565	△ 83,656
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 16,532	347,563
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 680	△ 348
現金及び現金同等物の増加額	275,531	504,059
現金及び現金同等物の期首残高	1,012,418	508,358
現金及び現金同等物の期末残高	1,287,950	1,012,418

（注）記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

Point ① >> 売上高

主要4分野すべて増加しておりますが、特に医薬・金融分野を中心に高水準の受注が獲得できました。

Point ② >> 営業利益

当社（翻訳センター）において順調に業績拡大を図ることができたことから、増益となりました。

Point ③ >> 経常利益

営業外損益の改善（前期は上場関連費用を計上）により、増益となりました。

Point ④ >> 特別利益

役員積立保険の解約益を計上しております。

Point ⑤ >> 当期純利益

米子会社に対する先行投資負担が影響し、減益となりました。

連結株主資本等変動計算書（2007.4.1～2008.3.31）

（単位：千円）

	株主資本				評価・換算差額等			純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
2007年3月31日 残高	386,000	276,380	641,811	1,304,191	—	△ 358	△ 358	1,303,832
連結会計年度中の変動額								
新株の発行	13,536	13,536		27,072				27,072
剰余金の配当			△ 38,550	△ 38,550				△ 38,550
当期純利益			205,163	205,163				205,163
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額（純額）					△ 1,480	△ 1,717	△ 3,198	△ 3,198
連結会計年度中の変動額合計	13,536	13,536	166,613	193,685	△ 1,480	△ 1,717	△ 3,198	190,487
2008年3月31日 残高	399,536	289,916	808,425	1,497,877	△ 1,480	△ 2,076	△ 3,556	1,494,320

（注）記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

個別貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

	当期 2008.3.31現在	前期 2007.3.31現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,040,093	1,683,105
固定資産	365,720	392,600
有形固定資産	36,029	47,220
無形固定資産	14,730	14,194
投資その他の資産	314,959	331,184
資産の部合計	2,405,813	2,075,705
<b>負債の部</b>		
流動負債	707,253	650,720
固定負債	113,772	105,432
負債の部合計	821,025	756,153
<b>純資産の部</b>		
株主資本	1,586,268	1,319,552
資本金	399,536	386,000
資本剰余金	289,916	276,380
資本準備金	289,916	276,380
利益剰余金	896,816	657,172
利益準備金	14,434	14,434
その他利益剰余金	882,381	642,737
評価・換算差額等	△ 1,480	—
評価・換算差額等	△ 1,480	—
純資産の部合計	1,584,787	1,319,552
負債・純資産の部合計	2,405,813	2,075,705

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

個別損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

	当期 2007.4.1～2008.3.31	前期 2006.4.1～2007.3.31
売上高	4,200,557	3,874,858
売上原価	2,206,312	2,024,842
売上総利益	1,994,245	1,850,015
販売費及び一般管理費	1,520,599	1,428,826
営業利益	473,645	421,189
営業外収益	5,570	3,917
営業外費用	339	15,561
経常利益	478,875	409,545
特別利益	12,847	11
特別損失	22	—
税引前当期純利益	491,700	409,556
法人税、住民税及び事業税	217,800	190,932
法人税等調整額	△ 4,293	△ 11,381
当期純利益	278,194	230,005

(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

個別株主資本等変動計算書 (2007.4.1～2008.3.31)

(単位：千円)

	株主資本						株主資本 合計	評価・換算 差額等合計	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金		その他 有価証券 評価差額金			
		資本準備金	資本 剰余金 合計	利益準備金	その他利益 剰余金 繰越利益剰余金				
2007年3月31日 残高	386,000	276,380	276,380	14,434	642,737	657,172	—	—	1,319,552
事業年度中の変動額									
新株の発行	13,536	13,536	13,536						27,072
剰余金の配当					△ 38,550	△ 38,550	△ 38,550		△ 38,550
当期純利益					278,194	278,194	278,194		278,194
株主資本以外の項目の事業 年度中の変動額 (純額)							△ 1,480	△ 1,480	△ 1,480
事業年度中の変動額合計	13,536	13,635	13,536	—	239,644	239,644	266,716	△ 1,480	265,235
2008年3月31日 残高	399,536	289,916	289,916	14,434	882,381	896,816	1,586,268	△ 1,480	1,584,787

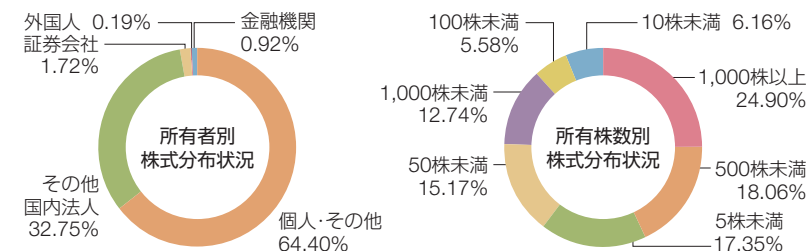
(注) 記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

株式の状況 (2008.3.31現在)

- ◇ 発行可能株式総数 51,400株
- ◇ 発行済株式総数 13,090株 (自己株式はありません)
- ◇ 株主数 1,659名
- ◇ 大株主

株主名	持株数
株式会社 ウィザス	3,260株
東 郁 男	665
池 亀 秀 雄	503
みずほキャピタル株式会社	500
浅 見 和 宏	413
角 田 輝 久	253
翻訳センター従業員持株会	250
二 宮 俊 一 郎	228
磯 野 由 美 子	227
妙 中 厚 雄	197

株式分布状況



会社概要 (2008.3.31現在)

- ◇ 商号 株式会社 翻訳センター
- ◇ 設立 1986年4月
- ◇ 資本金 3億9,953万6,000円
- ◇ 従業員数 193名 (連結)
- ◇ 事業内容 翻訳サービス業
- ◇ グループ会社 株式会社国際事務センター  
HC Language Solutions, Inc.

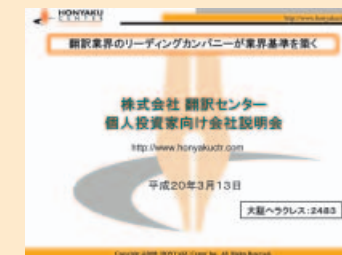
役員

- 代表取締役社長 東 郁 男
- 取締役 浅 見 和 宏
- 取締役 角 田 輝 久
- 取締役 二 宮 俊 一 郎
- 取締役 池 亀 秀 雄
- 取締役 柴 田 正 志
- 監査役 橋 中 厚 雄
- 監査役 妙 中 厚 雄

Topics

ヘラクレス上場4社合同個人投資家向け説明会に参加しました

2008年3月13日、東京・茅場町の東京証券会館にて開催されました、「ヘラクレス上場4社合同個人投資家向け説明会」に参加させていただきました。当日は夜遅い時間からの開催にも関わらず、多くの方々にご来場いただき、数多くのご支援のお言葉とご意見を直接頂戴いたしました。誠にありがとうございました。



(★資料をホームページに掲載しております)